

3. 研究の実際

基礎・基本の確実な習得を支える言語活動を活性化するために、次の3つの場を通して生徒の言葉の力を高めていく。

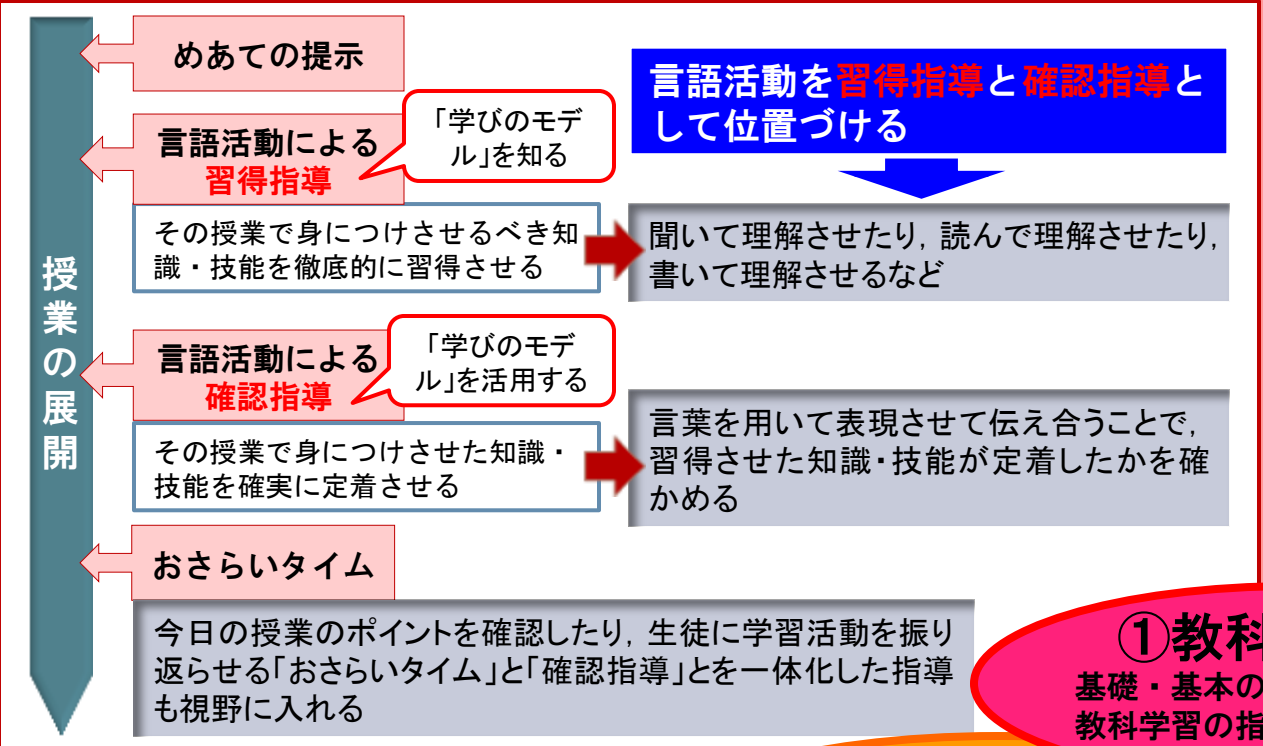


本校における言語活動のとらえ方

- 言語活動における**習得指導** …………… 基礎・基本の確実な習得のための手段
- 言語活動における**確認指導** …………… 基礎・基本が確実に習得できたかを知る指標

授業の展開における工夫

授業の展開に、「めあての提示」「言語活動による習得指導」「言語活動による確認指導」「おさらいタイム」を位置づける。その際、「学びのモデル」を活用する。



授業での言語活動の支え—学びのモデル

主幹教科としての国語科

○どの授業においても活用できる、「福中司会モデル」「福中発表モデル」を提示し、国語の授業で指導する。



- 音読・朗読、漢字の読み書きなどの**基本的な言葉の力の定着**を図る。
- 「話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと」のそれぞれに**記録、要約、説明、論述**などの言語活動を充実させる。

各教科

○各教科における言語活動例を整理する。

社会	体験や調査活動の表現	数学	筋道立てた説明
理科	観察・実験結果の説明	音楽	イメージや感じたことの伝え合い
美術	感じたことや考えたことを批評し合う	保健体育	筋道立てて作戦を説明
技術・家庭	生活をよりよくする方法の説明	外国語	積極的なコミュニケーションを図る

○これらをもとに、単元で取り組む言語活動を設定する。その際、学習のめあてを達成するために、右のような「学びのモデル」を提示する。

この作品を好きな作品に選んだ理由は、()です。

【ヒントカード】

- ・配色 ・構成 ・シムトリー
- ・色彩 ・グラデーション
- ・コントラスト ・対比
- ・バランス ・均一塗り

①教科学習の場

基礎・基本の確実な習得をめざす教科学習の指導

②心をはぐくむ場

言葉を通して人権感覚を育てる指導

③環境づくりの場

「ことばを大切に」教育環境の創造

目的・相手を意識した「伝え合う活動」の設定

教室での活動に、「福中発表・司会モデル」を活用

帰りの会で、自己表現(スピーチ)を実施

公開帰りの会の実施

道徳、学級活動、総合的な学習の時間で、重点的にはぐくむ

自尊感情を高める場の設定

言葉によって自尊感情を高める

目的を意識し、相手を尊重した学級活動の工夫として、KJ法や交流場面を活用した「心を育てる言葉」の作成と掲示を、全学級で実施

KJ法を用いて話し合う様子

教室に掲示した笑顔になる言葉

日本の伝統文化のよさを伝える指導

七夕飾り

健康のことわざ(保健室)

「自学」の志を育てる指導

座右の銘にふさわしい言葉

未来は「予想」するものではなく、自分の手で「創造」するものである

その他の校内掲示物

合唱コンクールイメージ画

今月のことば

季節を表す言葉(秋の言葉)

体の言葉が入ったことわざ